

# タカチホヘビ

*Achalinus spinalis* Peters

## 有鱗目ナミヘビ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

### 選定理由

夜行性の小型種なので目につきにくく、本県内での記録は少ない。本種の生息にはその地域の生物多様性がかかなり高いという指標的な意味があるが、開発による自然環境悪化によりその生息地が減少する危険性が高い。

### 形態

大きくなっても全長50cmほどの小さいヘビ。体表が真珠光沢をもち、全長35cm以上の個体では基色が黄褐色で、背の中央にある細い黒条が目立つ。しかし幼蛇は黒色味が強く、背面の黒条も目立たない。本州産のヘビでは本種以外は尾下板（尾の腹側の鱗）が対になって並んでいるが、本種では対になっておらず、1枚の鱗が並ぶだけである。

### 国内分布

北海道にはいないが、これまでにほとんどの都府県から記録されている。また沿岸島からの報告はあるが、離島からの記録はない。日本固有種。

### 県内分布

加賀地方から能登半島基部まで分布記録が散在する。しかしまだ奥能登からの記録はない。白山では標高1000mあたりでの記録がある。

### 生態

目につきにくい種であるが、珍しいヘビということで、かえって人の注意をひき、記録される機会が多い。切り通しや崖の多い地域での発見頻度が高い。本種の鱗は他のヘビのように瓦をならべたようになっておらず、タイルを貼ったようになっていて、隙間に皮膚が露出しているため乾燥に弱く、徘徊中に夜明けとなり、乾燥死する例がときどき見られる。

### 生息地の条件

落葉層、腐葉土層が発達して、餌になるミミズの多い林地が適しているように思われる。

### 生存の危機

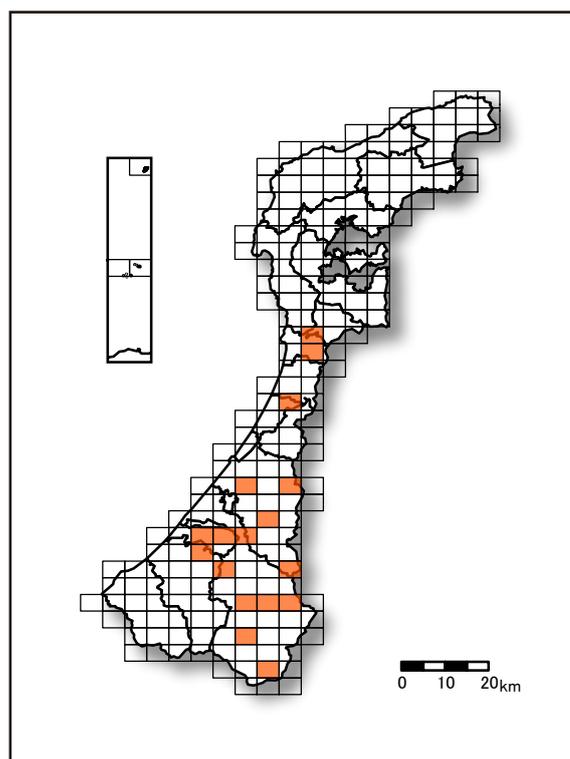
本種の生息密度が高かった金沢城址が公園化したために生息地としては消滅しようとしているように、開発による生息環境の悪化が各所で進んでいる。(A)

### 参考文献

千石正一(編) 1979. 原色/両生・爬虫類, p. 50. 家の光協会.  
千石正一 1996. 日本動物大百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類, p. 94-95. 平凡社.  
戸田光彦 1985. 石川県白山自然保護センター研究報告(12) : 67-69.



写真提供者: 徳本洋



県内の分布